



角田市DX推進計画概要版

ゼロ・グラビティ・シティ

～重力を超えて、もっと自由な明日の角田市へ～

計画の背景と目的

本市を取り巻く環境は大きく変化しており、デジタル技術を活用した変革（DX:デジタルトランスフォーメーション）を進めることにより、地域課題の解決と持続可能なまちづくりを実現することが求められています。

1 人口減少と 少子高齢化



人口減少と少子高齢化の進行により、地域の担い手不足や、行政サービスの維持が大きな課題となっています。

2 デジタル社会の進展



デジタル技術は急速に進化し、行政や地域社会、産業、暮らしのあらゆる場面で活用が進んでいます。

3 従来の業務手法の限界



紙や対面中心の業務、個別最適化されていないシステム等により、業務の非効率や市民サービスの向上に限界があります。



計画の目的

デジタル技術を最大限に活用し、
市民の利便性向上、行政の効率化、
地域産業の活性化を図り、
誰もが安心して快適に暮らせる、
持続可能なまちの実現を目指します。



現状と目指す姿

現状と課題

DX推進を妨げる「3つの壁」が存在します。

DXに対する
期待感



高い



モチベーションの壁

変革のメリットが実感しにくく、DXに取り組む動機が高まりにくい。



機会の壁

学ぶ・試す時間や機会が限られ、新しいことに挑戦しにくい。



組織構造の壁

縦割りや既存の業務プロセスが壁となり、柔軟な連携や迅速な意思決定が難しい。

このままでは…

- ✕ 市民サービスの向上が進まない
- ✕ 業務の効率化が進まず、職員の負担が軽減しない
- ✕ 変化に対応できず、将来のリスクが高まる



今こそ、壁を乗り越え、DXを加速させる必要があります。

目指す姿

重力から解放され、自由で創造的な未来へ。

角田市は、あらゆる「重力」から解放される未来を目指します。

- ✓ 手続きの重力から解放され、もっと簡単に
- ✓ 時間や場所の重力から解放され、もっと便利に
- ✓ 情報の重力から解放され、もっとつながる
- ✓ 前例や固定観念の重力から解放され、もっと柔軟に

デジタルの力で、市民一人ひとりの暮らしが軽やかに、職員一人ひとりの働き方がしなやかに、まち全体が持続的に発展する角田市へ。



もっと簡単に

手続きも、いつでもどこでも、よりシンプルに。



もっとつながる

人・情報・サービスがつながり、支え合うまちへ。



もっと便利に

時間や場所にとらわれない新しい暮らしと働き方を。



もっと柔軟に

前例にとらわれず、挑戦と創造性を後押し。

ゼロ・グラビティ・シティ

～重力から解放される角田市へ～

実現する未来



市民サービスの向上
一人ひとりに寄り添った質の高いサービスを実現。



業務の効率化・高度化
デジタルの力で業務を効率化し、より価値の高い業務へシフト。



職員のいきいきとした働き方
働きやすい環境で、能力を最大限に発揮できる組織へ。



持続可能なまちの実現
デジタルの力で地域課題を解決し、未来へつなぐまちへ。

デジタルの力で、すべての「重力」から解放された、軽やかで持続可能な未来をともに創り上げていきます。

重点施策

DXの効果を最大化するため、
「EX(組織・文化の変革)」「OX(業務の変革)」「CX(市民サービスの変革)」の
3つの変革領域を一体的に推進し、連鎖的に変革を生み出します。



EX

組織・文化の変革

職員一人ひとりの意識と行動を変え、
DXを推進する組織へ

データ活用やデジタル技術への理解を深め、
挑戦を後押しする風土を醸成します。
多様な人材が能力を発揮できる環境を整え、
変化に強く、学び続ける組織をつくります。

主な取り組み

- 柔軟な働き方
- 部署横断的な制度の導入
- DX推進体制の強化
- チャレンジを促す組織風土の醸成



OX

業務の変革

業務プロセスを見直し、
効率的で柔軟性の高い
行政運営へ

デジタル技術の活用と業務の見直しにより、
無駄をなくし、迅速かつ確かな意思決定を
実現します。
データに基づく業務運営を進めます。

主な取り組み

- 業務プロセスの見直し・標準化
- デジタル技術の活用による効率化
- データ活用基盤の整備



CX

市民サービスの変革

市民一人ひとりに寄り添い、
より便利で安心なサービスへ

オンライン手続きや情報の最適化により、
利便性を高めます。
誰もがデジタルの恩恵を実感できる、
やさしく、持続可能なサービスを提供します。

主な取り組み

- オンラインサービスの拡充
- 情報発信の最適化・個別最適化
- 誰一人取り残さないデジタル支援

EX

組織・文化の変革



変革を生み出す
原動力に

OX

業務の変革



効率化・高度化の
成果を、市民へ

CX

市民サービスの変革



EX → OX → CX の連鎖により、
行政の生産性を高め、市民の暮らしの質の向上と、
持続可能なまちづくりを実現します。



推進体制・ロードマップ・成果指標



推進体制

(全庁横断の連携でDXを推進)

全庁が一体となり、DXを強力に推進します。

人事・財政・デジタルの中核部署が連携し、機動的(アジャイル)に変革を実行する体制を構築します。

DX推進ワーキンググループ(WG)の役割



① 課題の発見と実証

データや現場の声を分析し、「見えない壁」を特定。改善案を検討し、実証につなげます。

② マインドの浸透

メンバー自らが行動指針を体現し、DXの新しい文化を全庁へ広げます。

③ つなぐ・広げる

知見や成功事例を共有し、組織横断の連携を促進する「ハブ」となります。

連携・協働パートナー



市民・地域
ニーズの共有・共創



民間事業者・団体・大学等
技術・ノウハウの提供



国・県・他自治体
制度・知見の共有



ICTベンダー
先進技術・サービスの活用



ロードマップ

段階的にDXを推進し、将来の姿を実現します。

短期 (1~3年)

基盤整備・意識醸成

- DX推進体制の構築と人材育成の強化
- 行政手続きのオンライン化拡充
- データ基盤の整備と利活用の推進
- 業務の見直し・標準化の推進

【目標】DXの土台を固め、全庁で推進する基盤を確立

中期 (4~6年)

業務変革・サービス向上

- 業務プロセスの抜本的な見直し・自動化
- データ活用による政策立案の高度化
- 市民サービスの利便性向上・個別最適化
- 組織・文化の変革と人材の高度化

【目標】業務とサービスを変革し、市民満足度を向上

長期 (7~10年)

価値創造・持続可能なまちへ

- データとデジタルを活用した価値創造
- 市民・地域・企業との共創による課題解決
- 柔軟で持続可能な行政運営の実現
- 誰一人取り残さないデジタル社会の実現

【目標】デジタルで未来を拓き、持続可能で魅力あるまちへ



成果指標 (KGI/KPI)

計画の実効性を担保するため、以下の指標を設定し、定期的な進捗管理と見直しを行います。



【Domain I】EX (組織・文化・人的資本)

KGI①: 誇りと成長を実感できる組織への変革

「自分の意志で工夫し、主体的に業務に取り組んでいる」と答える職員の割合
現状: 21.3% → 10年後目標: 40.0%以上

KPI①: インセンティブ・働きやすい環境整備に関する制度の創設・施策展開数【10年間で5件以上】

KPI②: 職員の超過勤務時間の削減率【現状比30%削減】



【Domain II】OX (業務の変革)

KGI②: 全庁的な連携とBPRを推進し、創造的時間を生み出す組織へ

「業務の削減・廃止に向けた見直しが積極的に行われている」と答える職員の割合
現状: 10.1% → 10年後目標: 50.0%以上

KPI③: 各課が年間で「廃止・縮小」を実施した業務数【年間50業務以上】



【Domain III】CX (市民サービスの変革)

KGI③: 手続や問い合わせをなくし、「市民満足度・幸福度」を最大化する

「DXによる新しい行政の確立」に対する市民の満足度
現状: 27.8% → 10年後目標: 60%以上

KPI④: オンライン行政サービス利用経験率
現状: 15% → 10年後目標: 50%

KPI⑤: オンライン行政サービス利用意向率
現状: 54% → 10年後目標: 80%

